

戦争法廃止の国民連合政府の呼びかけについての国会報告と意見交換会

2015. 11. 3. ニューライフプラザにて

真島省三衆議院議員のお話の要旨

6割を超す国民が反対する中、9月19日に戦争法（安保法制）が強行成立しました。この時は私も3日間あわせて8時間くらいしか眠れなかった。

いま安倍首相は1億総活躍社会と言っているが、余計なお世話ですよ。言われなくても国民は一生懸命生きています。その国民に政治が報いていないことが問題でしょ。国民の幸せのために国家があるんです。

今回、国民一人一人が主権者として自発的に立ち上がりました。それは戦後初めてのことで明るい希望を感じさせるものでした。シールズの若者たちは、今年の夏各紙が掲載した戦争体験の手記を読み合わせ、自分の感じたことを自分の言葉で語ったんです。多くの有名人も声を上げています。

国会審議の中で、安保法制は日本の平和や安全のためでなく、日本が攻撃されていなくてもアメリカが世界で行う戦争に自衛隊が参戦支援するための戦争法だということが明らかになりました。30分に1回のペースで答弁不能になって国会がストップしました。「戦闘地域には行けないという歯止めを外し戦闘の可能性があるとところまで自衛隊が行くということは、攻撃される可能性がある」とたまたした日本共産党の志位委員長に安倍首相は「自衛隊が攻撃されたら武器の使用をすることになる」と答弁。しかし、「自分を守るために打っても武力行使ではない」と言い張る。「安全なところを選んでいく」などとびっくりポンの答弁ですよ。戦場に安全なところなどあるはずないんです。駆けつけ警護も治安維持活動も戦争そのもの。治安維持活動ですでに3500人の戦死者を出しています。

集団的自衛権がどういうときに行われたか質問すると、戦後アメリカやソ連が小さな国を引き連れて行った侵略戦争ばかりです。

新三要件は「俺たちに白紙委任してくれ」というもの。あんなアメリカ言いなりのチャンピオン安倍政権に白紙委任できますか。立憲主義を壊すもので「俺が憲法より上だ」という態度じゃないですか。選挙で選ばれても国民の声に耳を傾けるといのが国民主権の民主主義です。安倍政権は「国民は黙っておけ」と平気で言っている。これでは独裁政権じゃないですか。こんな安倍政権は退場させようじゃないですか。

日本共産党は、衆参で戦争法を廃案にしようという国会議員が多数を得られれば、戦争法を廃案にすることができると提案しています。「戦争法（安保法制）

廃止の国民連合政府の実現を」という提案を戦争法が可決した9月19日に発表しました。戦争法の廃止に加えて、去年の7月に行った集団的自衛権は可能だという閣議決定を撤回させなければならない。この閣議決定が残れば国の基本方針として生きてくるので、これも撤回させましょう。

今は政策の違いは脇に置いて立憲主義・民主主義を取り戻すために力をあわせようと、日本共産党は呼びかけています。今は、憲法と民主主義が踏みにじられている非常事態です。暫定的な政権として連立し戦争法を廃止しようと呼びかけています。政策の違いとは次元の違う問題です。各政党に政策の違いがあるのは当たり前。それを捨てよと言っているわけではありません。国民連合政府と仮に日本共産党は言っているが、もっとカッコいい名前にしてもいいですよ。共産党の志位委員長は「『野党は共闘』という国民の声に応えようと、清水の舞台から飛び降りるつもりで決断した」と言いました。穀田恵二国対委員長は京都の人です。穀田さんは維新の会の松野さんに「清水の舞台から飛び降りて亡くなった方は一人もいない。松野さん、一緒に手をつないで飛び降りましょう」と言ったそうです。

この提案は注目されており、10月中旬の朝日の世論調査では、この提案について野党は選挙で協力すべきだという声が48%に増えています。選挙協力や安倍政権に代わる政権がまだはっきりとした形になっていないのにこの数字です。はっきりとした旗印を示せば、50～60%と上がっていくでしょう。戦争法可決後も、野党5党と5団体で1万人近い集会もくり返し国会周辺で開かれています。

来年7月の参議院選挙で、民主主義と憲法を大切にする新しい政治をという大義をはっきりさせて闘えば、展望は開けると思っています。国民のみなさんと一緒に大きなうねりを作り、新しい政府を作っていきます。

シールズなどの若い人たちが、「民主主義って何だ」「何だ」とはじめはコールしていた。それが「民主主義って何だ」「これだ！」に変わっていったんです。このコールが国民の闘いを象徴しています。「俺たちが主役だ!」「国民の声を聞け!」という声に答えて、ご一緒に新しい政治を開こうじゃありませんか。